

福原紀彦学長と OECD Student Ambassador 中央大学チームとの対談報告

2014 年 5 月 8 日（木）学長室にて、われわれ

“OECD Student Ambassador 中央大学チーム”は、
福原紀彦学長の貴重なお話を伺うことができました。

“OECD Student Ambassador”とは、日本の OECD 加盟
50 周年を記念して、全国の大学から 8 チーム（8 大学）
選抜された学生大使のことです。今年 1 年間かけてわれ
われは、学内で様々なイベントを行い、一人でも多くの
学生の皆さんに OECD（経済協力開発機構）という国際機
関に興味を持ってもらえればと思っています。



中央大学国際センターの協力をえて、第 1 回セミナー（4 月 17 日実施）を開催し、われわれの活動に関心を持って下さった学長との対談が実現しました。学長は OECD パリ本部の消費者政策委員会「消費者と電子商取引」プロジェクトの専門委員や OECD パリ国際フォーラム「消費者と電子商取引」にて日本代表セッションスピーカーをお務めになったご経験があり、その当時のお話を伺うとともに、われわれの活動に対するアドバイスや激励のお言葉をかけていただきました。学長室へ足を運ぶのも初めて、学長とお話をさせていただくことも初めてで、とても緊張しましたが、学長をはじめ、われわれの活動に多くの方が協力してくださり、人の「つながり」の大切さを身をもって感じることができました。この感謝の気持ちを胸に、今後の活動に全力投球して行きたいと思います。

より正確な広報活動のためにやるべきこと

われわれは広報活動を進めるにあたり、「宣伝」を最優先に活動してきました。もちろんそのことも重要ですが、より正確な情報を伝えることも大切であり、そのためには似通った価値観を持った自分たちの知識だけでまとめあげたものでは、うすっぺらなものになってしまうことが学長のお話の中で気づかされました。より正確な広報活動のためには、多方面の経験者へのインタビューをより多く行うことが必須であることがわかりました。異なった環境、価値観の中での考え方、とらえ方をわれわれは学び、理解し、広報活動につなげていければと考えております。

今後の日本の OECD への関わり方

今までの日本では、OECD 職員は官庁から多くの人材が派遣されてきました。しかしその傾向はだんだんと減ってきているとのこと。学長は、OECD の中での日本の存在感を再び高める必要があるとおっしゃいました。そのためには、次世代の日本のリーダーとなるべくわれわれ若者が、OECD の活動に興味を持ち、理解し、世界の中での日本を意識しつつ、自分たちができることを一歩ずつ取り組んでいく姿勢が大事ではないかと考えました。

今後月 1 回のペースで、OECD に関するイベントを企画していきます。よりよい内容にしていくためにも、皆様のご意見を心よりお待ちしております。

連絡先は、代表 中丸卓哉 oe.cd.20140101@gmail.com です。